



ANANDA HOSPITAL NEWS

アーナンダ病院ニュース

<http://iwvs.jp/> **インド福祉村協会** 検索 特定寄付金に税制上の優遇措置が認可(ボランティア募集中) E-mail/info@iwvs.jp

「日本とインドのきずな」

- ★ 東日本大震災義援金:募金パレード クシナガラ実施
- ★ 遠隔医療の開始
- ★ ボランティア訪問記録:報告



インドkushinagar 東日本日本大震災: 義援金、募金活動

インド福祉村協会 大竹 紘一



(早く寄付をしてください)



アーナンダ病院のオールスタッフと私とで2時間「北日本大震災の義援金募集活動」をおこないました。Kushinagar町の門柱から仏陀の涅槃堂までの店舗約200店、600人位の人々が義援金を出してくれました。

たいへん好評でfriendlyの日本の皆さんに少しでも役立ってほしいと小さな店主までもコインを入れていただき次々と募金箱に義援金が投入されました。アーナンダ病院の募金パレードはVery very good parade、Great Plan と握手を求める人もあり感激でした。A-nanda 病院がJapanese Charitable Hospitalとして地元の人々に愛されていることを改めて深く意識しました。

金額の大小でなく「ここところのふれあい」を感じました。貧しい

人々からの支援に心から厚く御礼と感謝をもうあげます。

翌日ニューウデリーの日本大使館義援金窓口に振り込みました。アーナンダ病院のDR Gupta と全staffに感謝です。



アーナンダ病院初訪問

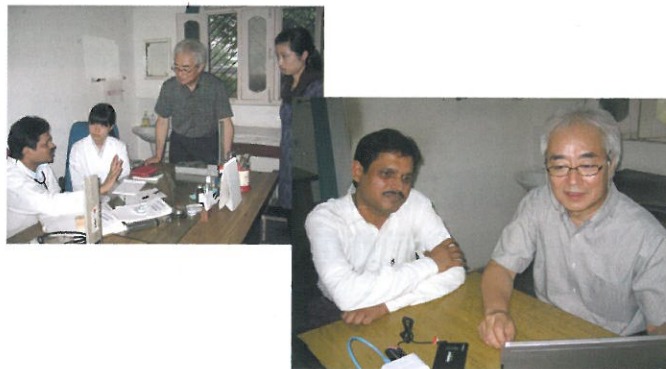
三瓶 宏一(アビットテクノロジー社長)

これまで偶然同じUP州で遠隔医療の検討をしていた関係で、いつも気になっていたのがこのアーナンダ病院です。それまではUP州の他の公立病院しか訪問したことがなかったのですが、2011年になってから年次総会参加を機に柴田先生、大竹様、加藤様に相談に乗って頂き、8月に初めてアーナンダ病院を訪れることができました。私の研究はICTを使って患者の健診データを農村部から都市部の病院に伝送して次の処置の指示をもらうというものでした。

アーナンダ病院の場合、グプタ医師が孤軍奮闘している状態なので先生の仕事を中断させることのないようにデータをコンピューター送り、時間のある時に健診データを見て血圧などの変化が察知して診察が必要な患者を探し出すような仕組みにすることをグプタ医師と話し合っ

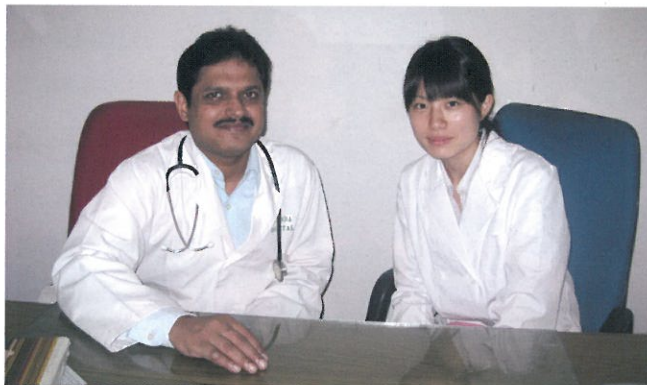
て完成させてもう一度アーナンダ病院に戻りたいと思っています。

今回特に大竹先生には訪問前と現地で大変お世話になりました。今後ともクシナガルの人たちの健康を向上させることに貢献して行きたいと思っております。



アーナンダ病院とグプタ医師の診察

広島大学医学部医学科5年 熊野 梨奈



2011年8月14～16日、インドの医療について学ぶため、大学の夏休みを利用してアーナンダ病院を訪問させていただきました。

Dr.グプタに、インドに多い疾患や国の医療制度などについてお話を伺ったり、行事に参加させていただいたり、また病院付近の村を訪れたり、貴重な体験をさせていただきました。

インドというと、感染症が多いというイメージを持っておりましたが、最近では食生活の変化に伴い、高血圧や糖尿病など、日本で非常に多く見られるような疾患が増えているということをお伺いしました。

もちろん、マラリアのような熱帯性の疾患も含め、未だにインドでは感染症も多いといえます。数日間インドで生活してみて、やはり衛生面などにおいては、日本と比較するとはるかに劣っていると感じました。教育を十分に受けていない人が多く、感染症対策を知らない、理解していない人も多いようです。

アーナンダ病院では、診療のみならず、そういった教育にも力を入れておられました。16日には診察を見学させていただきましたが、その合間

に、マラリア対策についての講義を、Drが待合室の患者さんにされておりました。特にアーナンダ病院のある地域では、貧しく教育を受けられない人が多いということで、そのような取り組みはより一層重要だと感じました。

Drの診察はとても丁寧で、一つひとつ、私に解説してくださりました。私が日頃見ている、大学病院での診療との大きな違いは、確定診断を下す前に、治療を開始することだと感じました。大学病院では多くの場合、診察後に必要な検査を行い、その後治療方針を決定しますが、アーナンダ病院では、Drは診察のみで患者の病態や疾患を推測し、治療を開始されます。インドには、日本のような保険制度が存在せず、そのため貧しい人々は十分な医療を受けることができません。様々な検査にはお金がかかるため、その費用をカットするため、検査の前に治療を始め、その効果を見て判断されるということでした。それでも



多くの場合、治療効果があるということで、Drの診断能力の高さに驚きました。物資などが限られるインドの農村部において、医師として、いかに最善の医療を提供するかということについて、Drとお話し、実際の診療を見学させていただく中で、深く考えさせられた3日間でした。インド福祉村村協会の皆様、お忙しい中熱心に指導してくださったDr.グプタ、他アーナンダ病院スタッフ、滞在中とても濃密で有意義な時間を過ごすことが出来ました。心より、感謝申し上げます。

2011年8月19日

アーナンダ病院ボランティア参加報告書

藤田保健衛生大学 今井 裕子

先日インドより無事帰国いたしました。私は現在愛知県にある藤田保健衛生大学の医学部に在籍しております。

1週間の滞在中、私は主にDr.Guptaの診察に同席させていただきました。糖尿病や高血圧といった生活習慣病や喘息、気管支炎、肺炎、骨粗しょう症による体の痛みといった日本でもよく見る一般的な疾患を多く目にしました。一方で日本では直接目にすることがなかった急性A型肝炎、疥癬、頭虱、腸チフスの症例を経験しました。CT、MRIといった高度な画像機器が無いなか、身体診察だけが頼りであり、これに全精力を注ぐのだとDr.Guptaは熱く語って下さいました。そして経験に基づき一刻も早く患者さんの訴えの原因を突き止め、痛みを無くしてあげるのが最優先だとおっしゃられていました。

これまで私は大学病院で行われる画像診断を中心とする医療しか見てこなかったため、問診と身体診察がこれほど重要なのだということを知りました。Dr.Guptaは診察中、細かく患者さんの説明を私に分かるよう説明して下さい、身体所見も一緒にとらせていただきました。私が聴診器を持参したので、異常心音・呼吸音を毎回聞かせてもらいとても勉強になりました。



今回このタイミングでアーナンダ病院にてインド農村部医療の現状を見せて頂いた事は自分にとって良い経験となりました。メディアから知られる近年のインドは、目を見張る経済成長を遂げています。しかし今回実際にインドの農村部を訪れ、まだ多くの貧困層の人々が存在していることを知りました。貧困層の人々の命を守るという使命感に燃えたDr.Guptaを心から尊敬しています。素晴らしい出会いを下さり有難うございました。再び訪問できることを希望しています。

アーナンダ病院と部落の人々

大阪ハイテクノロジー専門学校 鍼灸スポーツトレーナー学科 今井 加奈子



今回、姉と友人の計3人で一週間アーナンダ病院に滞在しました。デリーから14時間かけゴラクプール駅に着くと、グプタ先生がホームまで迎えに来て下さっており、その厳格そうな顔とは打って変わった優しい表情になりました。

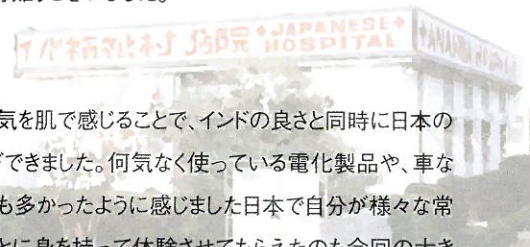
初日はグプタ先生の診察に付かせて頂きましたが、私には医学的知識が乏しいため、何か他のことができないか考え、友人と二人で患者さんに付き添い病院の外で待つ家族の方々と交流を始めました。日本から持ってきたペンと画用紙で絵を描いたり、協会の方より持っていきよう頼まれた折り紙を子供達に教えたりしました。言葉の壁はありましたが、好奇心旺盛な子供達に大人も混ざって、すぐに人だかりとなり二人であたふたしてしまっただけの良い思い出です。治療費が無料で、しかもグプ

タ先生の腕の良さが評判を呼び、毎日病院は多くの患者さんとその家族でごった返していました。その診察を一人でこなし、そしてバッテリー交換といった敷地内の管理も全てグプタ先生がされており驚きました。日中は30度を超え暑かったですが、朝方と日が暮れてからは心地よい気温でした。

茅葺の家に家畜と共に暮らす貧困層の生活もを見せていただきました。経済発展の目覚ましいインドという国にまだまだ貧困の問題が根強く残っている現実を目の当たりにしました。このような人たちの生活を向上させるにはどうしたらいいのか、私の中に問題意識が目覚めました。今回アーナンダ病院を訪問して、貧困と隣り合わせで暮らす人々を初めて目の当たりにしました。そしてその人たちに医療を施すグプタ先生の情熱に触れ、良い刺激を頂きました。自分の将来はまだ不明確ですが、きっと必ず人の為になる、人に必要とされる存在になりたいです。素晴らしい機会を与えて下さり有難うございました。

西澤 孝朗

インドの現地の雰囲気を感じること、インドの良さと同時に日本の良さにも気付くことができました。何気なく使っている電化製品や、車など日本の製品がとて多かつたように感じました日本で自分が様々な常識に囚われていることに身を持って体験させてもらったのも今回の大きな収穫でした。(以下略)





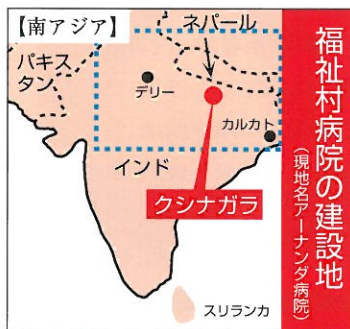
今夏、インド福祉村協会さんのご厚意でアーナンダ病院を訪問することができました。今回私はリーダーとして医学生9名、看護学生6名、PT専攻1名のべ16人からなるグループを率いてインドで2週間の研修旅行を企画しました。

病院があるKushinagarはインドの喧騒から離れた田舎町で、病院の周りも畑に囲まれており大変のどかな所でした。アーナンダ病院が地域の人に欠かせない存在であることが分かりました。またそれ以上に、チャリティーで運営されていて患者さんの負担がほとんどないことからアーナンダ病院が地域の人々の健康に果たしている役割の大きさを実感し

ました。私たちはDr.グプタ先生の診察に付き添い見学させて頂いたのですが、現在の日本では教科書でしかみえないような病気(象皮病、カラアザール、マラリア)に罹患した患者さんを見て驚くとともに日本の医師が発展途上国に来て役に立てないだろうと痛感しました。寄生虫症は日本においてはまさにNeglected diseaseというにふさわしい扱いを受けています。私達の大学はかなり寄生虫学に力を入れているのですが、担当の先生方はいかにそういったTropical diseasesが世界において重要であるか熱弁されています。アーナンダ病院を訪れるまではそのことについて半信半疑でありましたが、今回その重要性を認識でき今後勉学に励む上で大変刺激になりました。

それは「Poverty, Illiteracy, Disease」が三角形の関係をなしているこの三つが悪循環しているとのことでした。このサイクルを断ち切らねばならないと先生はおっしゃいました。その他、グプタ先生とのお話を通して様々なものの見方を知ると同時に先生のアーナンダ病院、ひいてはチャリティーへの熱意を感じました。グプタ先生は私の理想の医師像であると同時に決して真似をできないような立派な方でした。

今回の訪問では私の将来に大きく影響するような体験をさせて頂きました。今後より一層勉学に励むとともにまたアーナンダ病院を訪問できたらと思います。



(子供たちと一緒に)

現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL:91-92354-24671 / 91-5564-217544

住所:VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

入会のお願い

- | | | |
|----------|----------------|--|
| 正会員:年会費 | 5,000円 | 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。 |
| 特別会員: | 100,000円(一口以上) | 代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。 |
| 賛助会員:年会費 | 1,000円(一口以上) | 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。 |

【会費・寄附の支払い方法】

郵便振替 郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行う。ご一報いただければ用紙をお送り致します。また、入金が確認されましたら領収書を送らせていただきます。寄附金は、税制上の優遇措置が受けられます。

郵便振込(口座番号) 00830-2-65008 (加入者名)インド福祉村協会

銀行振込 ゆうちょ銀行(口座番号) 12150-95478991 (加入者名) 特定非営利活動法人インド福祉村協会

募金のお願い!

少しでもあなたの善意を
分けて下さい。

インド福祉村協会(INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)
理事長/三木隆治 専務理事/高木元昊 常務理事/大竹紘一
理事/柴田昌雄、中村義博、田中久子、K・L・バハール、樋口恵子、加藤伸也、吉田晃
事務局長/渡辺康二
ホームページ/ <http://iwvs.jp> E-mail/ info@iwvs.jp

■発行者 インド福祉村協会(IWVS)
■発行人 大竹紘一 加藤伸也 ■編集 文創社
■インド福祉村協会事務局
〒440-0035 愛知県豊橋市平川南町73
TEL:0532-66-1010 FAX:0532-66-1073